NTT docomo

F-01D

ARROWS Tab LTE

クイックスタートガイド '12.7

詳しい操作説明は、F-01Dに搭載されている「取扱説明書」アプリ（eトリセツ）をご覧ください。

はじめに

「F-01D」をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
ご使用の前やご利用中に、本書をお読みいただき、正しくお使いください。

操作説明

「クイックスタートガイド」（冊子）

画面の表示内容や基本的な機能の操作について説明

「取扱説明書」（本端末に搭載）

すべての機能の案内や操作について説明
アプリケーションメニューで［取扱説明書］→検索方法を選択

「取扱説明書」（PDFファイル）

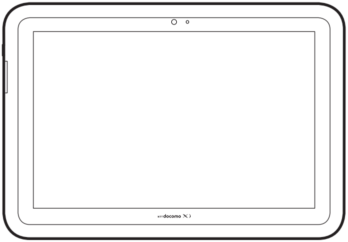
すべての機能の案内や操作について説明
〈パソコンから〉http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html
※最新情報がダウンロードできます。

本書の見かた

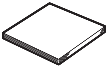
- 本書においては、「F-01D」を「本端末」と表記しています。
- 本書に掲載している画面およびイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは、禁止されています。
- 本書の内容やホームページのURLおよび記載内容は、将来予告なしに変更することがあります。

本体付属品

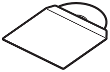
■F-01D（保証書含む）



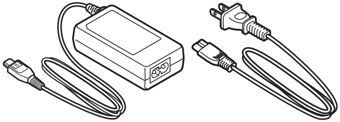
■クイックスタートガイド



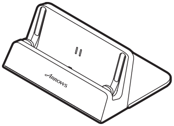
■電子辞書データ DVD（試供品）



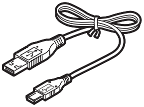
■AC アダプタ F05（保証書付き）



■卓上ホルダ F35



■PC 接続用 USB ケーブル T01



目　次

本端末のご利用について

- 本端末は、LTE・W-CDMA・GSM/GPRS・無線LAN方式に対応しています。
- 本端末は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所、XiサービスエリアおよびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強く電波状態アイコンが4本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通信が切れることがありますので、ご了承ください。
- 本端末は、無線による通信を行っていることから、電波状態の悪い所へ移動するなど、送信されてきたデジタル信号を正確に復元できない場合には、実際の送信内容と異なって受信される場合があります。
- お客様ご自身で本端末に登録された情報内容（連絡先、スケジュール、メモなど）は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。本端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本端末はパソコンなどと同様に、お客様がインストールを行うアプリケーションなどによっては、お客様の端末の動作が不安定になったり、お客様の位置情報や本端末に登録された個人情報などがインターネットを経由して外部に発信され不正に利用されたりする可能性があります。このため、ご利用されるアプリケーションなどの提供元および動作状況について十分にご確認の上ご利用ください。
- 大切なデータはmicroSDカードに保存することをおすすめします。
- 本端末は、Xiエリア、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。
- 本端末はｉモードのサイト（番組）への接続、ｉアプリなどには対応しておりません。
- Googleアプリケーションおよびサービス内容は、将来予告なく変更される場合があります。
- 本端末は、データの同期や最新ソフトウェアバージョンをチェックするための通信やサーバーとの接続を維持するための通信などを一部自動的に行う仕様となっています。また、アプリケーションのダウンロードや動画の視聴などデータ量の大きい通信を行うと、パケット通信料が高額になりますので、パケット定額サービスのご利用を強くおすすめします。
- 本端末では、マナーモード中でも、着信音や各種通知音を除く音（動画再生、音楽の再生、アラームなど）は消音されません。
- お客様の電話番号（自局番号）は以下の手順で確認できます。
  アプリケーションメニューで［設定］→［端末情報］→［プロフィール］
- 本端末のソフトウェアを最新の状態に更新することができます。→P49
- 本端末の品質改善に対応したアップデートや、オペレーティングシステム（OS）のバージョンアップを行うことがあります。バージョンアップ後に、古いバージョンで使用していたアプリケーションが使えなくなる場合や意図しない不具合が発生する場合があります。
- microSDカードや本端末の容量がいっぱいに近い状態のときに、起動中のアプリケーションが正常に動作しなくなる場合があります。そのときは保存しているデータを削除してください。
- 紛失に備え画面ロックのパスワードを設定し、本端末のセキュリティを確保してください。
- Googleが提供するサービスについては、Google Inc.の利用規約をお読みください。また、そのほかのウェブサービスについては、それぞれの利用規約をお読みください。
- 本端末では、ドコモminiUIMカードのみご利用できます。ドコモUIMカードやFOMAカードをお持ちの場合には、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。
- 万が一紛失した場合は、Googleトーク、Gmail、Google PlayなどのGoogleサービスや、Twitter、Facebookなどのサービスを他人に利用されないように、パソコンから各種アカウントのパスワードを変更してください。

- spモード、mopera UおよびビジネスmoperaインターネットP（VPN設定はPPTPのみに限定）以外のプロバイダはサポートしておりません。
- 本端末の電池は内蔵されており、お客様自身では交換できません。
- 本端末は、音声通話およびデジタル通信（テレビ電話、64Kデータ通信）には対応しておりません。
- テザリングのご利用には、spモードのご契約が必要です。
- ご利用の料金プランにより、テザリングご利用時のパケット通信料が異なります。パケット定額サービスのご利用を強くおすすめします。
- ご利用時の料金など詳細については、http://www.nttdocomo.co.jp/をご覧ください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は、大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合および物的損害の発生が想定される」内容です。

● 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。

指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

■「安全上のご注意」は次の項目に分けて説明しています。

◆本端末、アダプタ、卓上ホルダ、ドコモminiUIMカードの取り扱い（共通）

⚠危険

禁止 **高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しないでください。**
火災、やけど、けがの原因となります。

禁止 **電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れないでください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

分解禁止 **分解、改造をしないでください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

水濡れ禁止 **水や飲料水、ペットの尿などで濡らさないでください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。
防水性能についてはこちらをご参照ください。→P14

指示 **本端末に使用するアダプタは、NTTドコモが指定したものを使用してください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

⚠警告

禁止 **強い力や衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止 **充電端子や外部接続端子に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させないでください。また、内部に入れないでください。**
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止 **使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。**
火災、やけどの原因となります。

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。
指示
ガスに引火する恐れがあります。

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。
指示
- 電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く。
- 本端末の電源を切る。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

⚠注意

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。
禁止
落下して、けがの原因となります。

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。
禁止
火災、やけど、感電の原因となります。

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。
指示
けがなどの原因となります。

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。
指示
誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

本端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。
指示
充電しながらアプリケーションやワンセグ視聴などを長時間行うと本端末やアダプタの温度が高くなることがあります。
温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となったりする恐れがあります。

◆本端末の取り扱い

■ 本端末の内蔵電池の種類は次のとおりです。

表　示	電池の種類
Li-ion 00	リチウムポリマー電池

⚠危険

火の中に投下しないでください。
禁止
内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
禁止
内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

内蔵電池内部の液体などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。
指示
失明の原因となります。

⚠警告

本端末内のドコモminiUIMカードやmicroSDカード挿入口に水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
禁止
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、本端末の電源を切ってください。
指示
電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。
医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられます。
ただし、電波を出さない設定にすることなどで、機内で携帯電話が使用できる場合には、航空会社の指示に従ってご使用ください。

指示

着信音が鳴っているときなどは、必ず本端末を耳から離してください。
また、イヤホンマイクなどを本端末に装着し、ゲームや音楽再生をする場合は、適度なボリュームに調節してください。
音量が大きすぎると難聴の原因となります。
また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。

指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ（振動）や着信音量の設定に注意してください。
心臓に悪影響を及ぼす原因となります。

指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。

指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本端末の電源を切ってください。
電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。
※ ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

指示

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出した端末の内部にご注意ください。
ディスプレイ部の表面にはABS樹脂、カメラのレンズの表面には高強度アクリル樹脂部品を使用しガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

指示

内蔵電池が漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。
漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

⚠注意

禁止

本端末が破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

モーションセンサーのご使用にあたっては、必ず周囲の安全を確認し、本端末をしっかりと握り、必要以上に振り回さないでください。
けがなどの事故の原因となります。

禁止

誤ってディスプレイを破損し、液晶が漏れた場合には、顔や手などの皮膚につけないでください。
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液晶が目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。
また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸で水洗いしてください。

禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。
発火、環境破壊の原因となります。不要となった端末は、ドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

指示

自動車内で使用する場合、自動車メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。

指示 **お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。**→「材質一覧（P10）」

指示 **ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、画面からある程度の距離をとってご使用ください。**
視力低下の原因となります。

指示 **内蔵電池内部の液体などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚につけないでください。**
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液体などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。
また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診断を受けてください。

◆アダプタ、卓上ホルダの取り扱い

⚠警告

禁止 **アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止 **ACアダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止 **DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止 **雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。**
感電の原因となります。

禁止 **コンセントやシガーライターソケットにつないだ状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止 **アダプタのコードの上に重いものをのせないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止 **コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

濡れ手禁止 **濡れた手でアダプタのコード、卓上ホルダ、コンセントに触れないでください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

指示 **指定の電源、電圧で使用してください。また、海外で充電する場合は、海外で使用可能なACアダプタで充電してください。**
誤った電圧で使用すると火災、やけど、感電の原因となります。
ACアダプタ：AC100V
DCアダプタ：DC12V・24V（マイナスアース車専用）
海外で使用可能なACアダプタ：AC100V～240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）

指示 **DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。**
火災、やけど、感電の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

指示 **電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。**
火災、やけど、感電の原因となります。

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。
指示
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く場合は、アダプタのコードを無理に引っ張らず、アダプタを持って抜いてください。
指示
火災、やけど、感電の原因となります。

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いてください。
電源プラグを抜く
火災、やけど、感電の原因となります。

万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントやシガーライターソケットから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜く
火災、やけど、感電の原因となります。

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いて行ってください。
電源プラグを抜く
火災、やけど、感電の原因となります。

◆ ドコモminiUIMカードの取り扱い

⚠注意

ドコモminiUIMカードを取り外す際は切断面にご注意ください。
指示
けがの原因となります。

◆ 医用電気機器近くでの取り扱い

■ 本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準ずる。

⚠警告

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。
指示
- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）には本端末を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本端末の電源を切ってください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本端末の電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、本端末の電源を切ってください。
指示
電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本端末は22cm以上離して携行および使用してください。
指示
電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。
指示
電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

◆材質一覧

使用箇所		材　質	表面処理
外装ケース	フロントケース	ABS樹脂	UVハードコート
	リアケース	PC+ABS樹脂	UVハードコート
タッチパネル		強化ガラス	AFコート
カメラパネル		高強度アクリル樹脂	UVハードコート
電源キー		ABS樹脂	錫メッキ
音量ボタン		ABS樹脂	錫メッキ
ステレオイヤホン端子		PA樹脂	なし
端子キャップ／スロットキャップ	本体	PC樹脂	UVハードコート
	屈曲部	エラストマー樹脂（PE）	なし
	止水部	シリコーンゴム	なし
外部接続端子		ステンレス鋼	錫メッキ
充電端子	接点部	ステンレス鋼	金メッキ
	接点ホルダ部	LCP樹脂	なし

■ACアダプタ F05

使用箇所	材　質	表面処理
ケース	PPE樹脂	なし
ラベル	PET樹脂	なし
USBケーブル	FRPE樹脂	なし
電源ケーブル（被覆、プラグモールド部、コネクタ部）	PVC樹脂	なし
電源ケーブル（プラグ）	C2680-1/2H（黄銅）	Niメッキ
電源ケーブル（プラグ耐トラッキング部）	PBT樹脂	なし

■卓上ホルダ F35

使用箇所	材　質	表面処理
上下ケース	ABS樹脂	なし
端子レバー	POM樹脂	なし
接点端子	C5191W-H	Niメッキ+金メッキ
端子レバーバネ	SUS304 WPB	なし
microUSBプラグ部（シェル）	ステンレス鋼	Niメッキ
microUSBプラグ部（樹脂）	TPE樹脂またはPVC樹脂	なし
コード	TPE樹脂またはPVC樹脂	なし
基板	ガラエポ	なし
ゴム足	PORON	なし

■PC接続用USBケーブルT01

使用箇所	材　質	表面処理
microUSBプラグ部（シェル）	ステンレス鋼	Niメッキ
microUSBプラグ部（樹脂）	TPE樹脂またはPVC樹脂	なし
コード	TPE樹脂またはPVC樹脂	なし
USBプラグ部（シェル）	鋼板	Niメッキ
USBプラグ部（樹脂）	TPE樹脂またはPVC樹脂	なし

取り扱い上のご注意

◆共通のお願い

- **F-01Dは防水性能を有しておりますが、端末内部に浸水させたり、付属品、オプション品に水をかけたりしないでください。**
  - アダプタ、卓上ホルダ、ドコモminiUIMカードは防水性能を有しておりません。風呂場などの湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- **お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
  - 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
  - ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
  - アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- **端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。**
  - 端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
    また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- **エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。**
  - 急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- **本端末などに無理な力がかからないように使用してください。**
  - 多くのものが詰まった荷物の中に入れたりするとディスプレイ、内部基板などの破損、故障の原因となります。また、外部接続機器を外部接続端子やステレオイヤホン端子に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。
- **ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。**
  - 傷つくことがあり、故障、破損の原因となります。
- **オプション品に添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。**

◆本端末についてのお願い

- **タッチパネルの表面を強く押したり、爪やボールペン、ピンなど先の尖ったもので操作したりしないでください。**
  - タッチパネルが破損する原因となります。
- **極端な高温、低温は避けてください。**
  - 温度は5℃～35℃、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。お風呂場でのご使用については、「F-01Dが有する防水性能でできること」をご覧ください。→P15
- **一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。**
- **お客様ご自身で本端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
  - 万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- **本端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **外部接続端子やステレオイヤホン端子に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。**
  - 故障、破損の原因となります。
- **使用中、充電中、本端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**

- **カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
  - 素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- **通常は端子キャップとスロットキャップを閉じた状態でご使用ください。**
  - ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- **microSDカードの使用中は、microSDカードを取り外したり、本端末の電源を切ったりしないでください。**
  - データの消失、故障の原因となります。
- **磁気カードなどを本端末に近づけないでください。**
  - キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。
- **本端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。**
  - 強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。
- **内蔵電池は消耗品です。**
  - 使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは内蔵電池の交換時期です。内蔵電池の交換につきましては、本書巻末の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。
- **充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。**
- **内蔵電池の使用時間は、使用環境や内蔵電池の劣化度により異なります。**
- **内蔵電池を保管される場合は、次の点にご注意ください。**
  - フル充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管
  - 電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程消費している状態）での保管

  内蔵電池の性能や寿命を低下させる原因となります。保管に適した電池残量は、目安として電池残量が40パーセント程度の状態をお勧めします。

◆アダプタについてのお願い

- **充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。**
- **次のような場所では、充電しないでください。**
  - 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- **充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**
- **DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。**
  - 自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- **抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。**
- **強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。**
  - 故障の原因となります。

◆ドコモminiUIMカードについてのお願い

- **ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。**
- **他のICカードリーダー／ライターなどにドコモminiUIMカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。**
- **IC部分はいつもきれいな状態でご使用ください。**
- **お手入れは、乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
- **お客様ご自身でドコモminiUIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
  - 万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- **環境保全のため、不要になったドコモminiUIMカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。**
- **ICを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。**
  - データの消失、故障の原因となります。

- **ドコモminiUIMカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
  - 故障の原因となります。
- **ドコモminiUIMカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。**
  - 故障の原因となります。
- **ドコモminiUIMカードにラベルやシールなどを貼った状態で、本端末に取り付けないでください。**
  - 故障の原因となります。

◆Bluetooth機能を使用する場合のお願い

- **本端末は、Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を使用した通信を行う際にはご注意ください。**
- **Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。**
- **周波数帯について**

  本端末のBluetooth機能が使用する周波数帯は次のとおりです。

  使用周波数帯域：2400MHz帯
  変調方式：FH-SS方式
  想定される与干渉距離：10m以下
  周波数変更の可否：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

Bluetooth機器使用上の注意事項

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
3. その他、ご不明な点につきましては、本書巻末の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

◆無線LAN（WLAN）についてのお願い

- **無線LAN（WLAN）は、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。**
- **無線LANについて**

  電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。

- 周波数帯について
  WLAN搭載機器が使用する周波数帯は次のとおりです。
  使用周波数帯域：2400MHz帯
  変調方式：DS-SS方式、OFDM方式
  想定される与干渉距離：40m以下
  周波数変更の可否：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能
  利用可能なチャンネルは国により異なります。
  WLANを海外で利用する場合は、その国の使用可能周波数、法規制などの条件を確認の上、ご利用ください。
  航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

2.4GHz機器使用上の注意事項
WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいた上で、本書巻末の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせいただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書巻末の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

◆注意

- **改造された端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。**
  本端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。
  本端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。
  技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- **自動車などを運転中の使用にはご注意ください。**
  運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。
  ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合は対象外となります。
- **Bluetooth機能は日本国内で使用してください。**
  本端末のBluetooth機能は日本国内での無線規格に準拠し認定を取得しています。
  海外でご使用になると罰せられることがあります。
- **基本ソフトウェアを不正に変更しないでください。**
  ソフトウェアの改造とみなし故障修理をお断りする場合があります。
- **通信中は、本端末を身体から15mm以上離してご使用ください。**

防水性能

F-01Dは、端子キャップとスロットキャップをしっかりと閉じた状態で、IPX5※1、IPX7※2の防水性能を有しています。

※1 IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5L/分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、通信端末としての機能を有することを意味します。

※2 F-01DにおけるIPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1.0mの所にF-01Dを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに通信端末としての機能を有することを意味します。

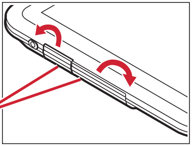
❖F-01Dが有する防水性能でできること

- **1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。**
  - 手が濡れているときや端末に水滴がついているときには、端子キャップやスロットキャップの開閉はしないでください。
- **水深1.0mのプールの中に沈めることができます。**
  - 水中で操作しないでください。
  - プールの水に浸けるときは、30分以内としてください。
  - プールの水がかかったり、プールの水に浸けたりした場合は、後述の方法で洗い流し、所定の方法（→P16）で水抜きしてください。
- **お風呂場で使用できます。**
  - 湯船には浸けないでください。また、お湯の中で使用しないでください。故障の原因となります。万が一、湯船に落としてしまった場合には、すぐに拾って所定の方法（→P16）で水抜きしてください。
  - 温泉や石鹸、洗剤、入浴剤の入った水には絶対に浸けないでください。万が一、水道水以外が付着してしまった場合は、直ちに後述の方法で洗い流し、所定の方法（→P16）で水抜きしてください。
  - お風呂場では、温度は5℃～45℃、湿度は45%～99%、使用時間は2時間以内の範囲でご使用ください。
  - 急激な温度変化は結露の原因となります。寒いところから暖かいお風呂などに本端末を持ち込むときは、本端末が常温になるまで待ってください。
  - 蛇口やシャワーから水やお湯などをかけないでください。
- **洗面器などに張った静水につけて、ゆすりながら汚れを洗い流すことができます。**
  - 洗うときは、端子キャップとスロットキャップが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず洗ってください。

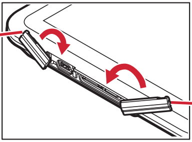
◆防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。
- ドコモminiUIMカードやmicroSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示すミゾに指を掛けてキャップを開け、矢印のように回してください。



また、ドコモminiUIMカードやmicroSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように回してキャップを閉じ、ツメを押し込んでキャップの浮きがないことを確認してください。



- 端子キャップとスロットキャップはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）が挟まると、浸水の原因となります。
- マイク、スピーカーなどを尖ったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- 端子キャップ、スロットキャップのゴムパッキンは防水性能を維持する上で重要な役割を担っています。ゴムパッキンをはがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。

防水性能を維持するため、異常の有無に関わらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。部品の交換は端末をお預かりして有料にて承ります。ドコモ指定の故障取扱窓口にお持ちください。

◆ご使用にあたっての注意事項

次のイラストで表すような行為は行わないでください。

〈例〉


石鹸／洗剤／入浴剤をつける


ブラシ／スポンジで洗う


洗濯機で洗う


強すぎる水流を当てる


海水につける


温泉で使う


砂／泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

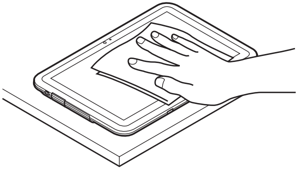
- 付属品、オプション品は防水性能を有していません。付属の卓上ホルダに端末を差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。
- 規定（→P14）以上の強い水流（例えば、蛇口やシャワーから肌に当てて痛みを感じるほどの強さの水流）を直接当てないでください。F-01DはIPX5の防水性能を有していますが、内部に水が入り、感電や電池の腐食などの原因となります。
- 熱湯に浸けたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 本端末を水中で移動させたり、水面に叩きつけたりしないでください。
- 水道水やプールの水に浸けるときは、30分以内としてください。
- プールで使用するときは、その施設の規則を守って、使用してください。
- 本端末は水に浮きません。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- マイク、スピーカーに水滴を残さないでください。動作不良となる恐れがあります。
- 端子キャップやスロットキャップが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、ドコモ指定の故障取扱窓口へご連絡ください。
- 端子キャップやスロットキャップのゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、ドコモ指定の故障取扱窓口にてお取替えください。

実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

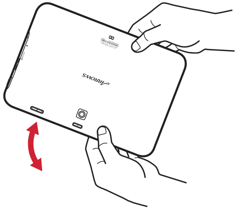
◆水抜きについて

本端末を水に濡らすと、拭き取れなかった水が後から漏れてくることがありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

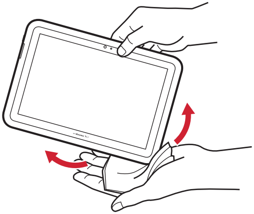
① 本端末を安定した台などに置き、表面、裏面を乾いた清潔な布などでよく拭き取ってください。



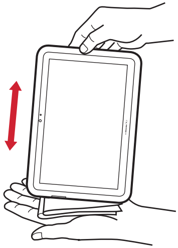
② 本端末のディスプレイ面を下にして、長い辺を両手でしっかりと持ち、10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。その後、180度持ち替えて同様に10回程度水滴が飛ばなくなるまで振ってください。



③ 外周部の隙間に溜まった水は、乾いた清潔な布などに本端末の四隅を各10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



④ マイク、スピーカー、キー、充電端子などの隙間に溜まった水は、乾いた清潔な布などに本端末を10回程度振るように押し当てて拭き取ってください。



⑤ 本端末から出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取り、自然乾燥させてください。
- 水を拭き取った後に本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。
- 隙間に溜まった水を綿棒などで直接拭き取らないでください。

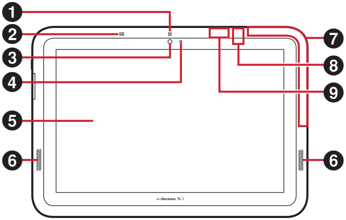
◆充電のときには

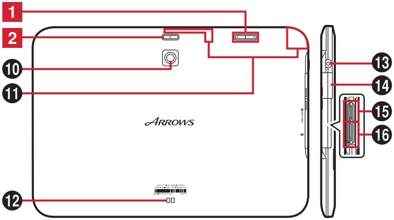
充電時、および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本端末が濡れていないか確認してください。本端末が濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品、オプション品は防水性能を有していません。
- 本端末が濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、付属の卓上ホルダに差し込んだり、端子キャップを開いたりしてください。
- 端子キャップを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとキャップを閉じてください。なお、外部接続端子からの浸水を防ぐため、卓上ホルダを使用して充電することをおすすめします。
- ACアダプタ、卓上ホルダは、お風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りや水のかかる場所で使用しないでください。火災や感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタ、卓上ホルダに触れないでください。感電の原因となります。

ご使用前の確認と設定

各部の名称と機能





〈各部の機能〉

❶ ランプ
　赤色点灯：充電中
　※ アプリケーションによって点灯色は異なります。

❷ マイク

❸ インカメラ

❹ 照度センサー
　周囲の明るさを検知して、ディスプレイのバックライトの明るさを自動調節
　※ ふさぐと正しく検知されない場合があります。

❺ ディスプレイ（タッチパネル）

❻ スピーカー

❼ ワンセグアンテナ部
　※ アンテナは本体に内蔵されています。手で覆うと品質に影響を及ぼす場合があります。

❽ Bluetooth／Wi-Fiアンテナ部
　※ アンテナは本体に内蔵されています。手で覆うと品質に影響を及ぼす場合があります。

❾ GPSアンテナ部
　※ アンテナは本体に内蔵されています。手で覆うと品質に影響を及ぼす場合があります。

❿ アウトカメラ

⓫ LTEアンテナ部
　※ アンテナは本体に内蔵されています。手で覆うと品質に影響を及ぼす場合があります。

⓬ 充電端子

⓭ ステレオイヤホン端子（防水）

⓮ 外部接続端子
　付属のPC接続用USBケーブル T01などの接続
　※ microUSBプラグは刻印のある面を上にして、外部接続端子に水平に差し込んでください。

⓯ microSDカードスロット→P19

⓰ ドコモminiUIMカードスロット→P19

〈キーの機能〉

1 音量大キー [◀]／音量小キー [▶]
　押す：音量調節

2 電源キー [⏻]
　押す：スリープモードの設定／解除
　長く押す：電源を入れる／切る、再起動

ドコモminiUIMカード

ドコモminiUIMカードとは、お客様の情報が記録されているICカードです。

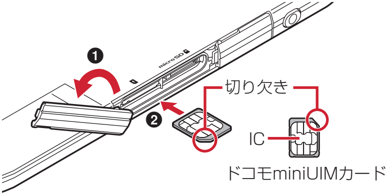
- 本端末ではドコモminiUIMカードのみご利用できます。ドコモUIMカード、FOMAカードをお持ちの場合には、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。
- ドコモminiUIMカードが本端末に取り付けられていないと、一部の機能を利用することができません。
- ドコモminiUIMカードについて詳しくは、ドコモminiUIMカードの取扱説明書をご覧ください。

◆ ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外し

- ドコモminiUIMカードの取り付け／取り外しは、電源を切ってから行ってください。

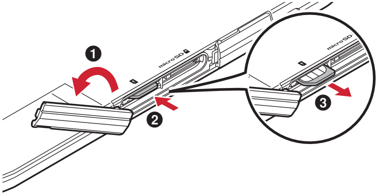
■ 取り付けかた

本端末のスロットキャップを開け（❶）、本端末裏側のUIMカードマークの向きに合わせてドコモminiUIMカードのIC面を上に向けて、ドコモminiUIMカードを「カチッ」と音がするまで❷の方向に差し込む



■ 取り外しかた

本端末のスロットキャップを開け（❶）、ドコモminiUIMカードを❷の方向に軽く押し込んでから離し、ドコモminiUIMカードを❸の方向にまっすぐ引き出す



microSDカード

◆ microSDカードについて

本端末にmicroSDカードまたはmicroSDHCカードを取り付けて利用します。

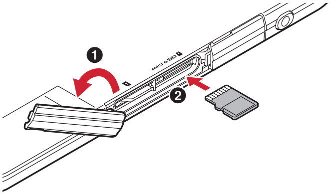
- 本端末は、2GBまでのmicroSDカードと32GBまでのmicroSDHCカードに対応しています（2012年7月現在）。ただし、市販されているすべてのmicroSDカードおよびmicroSDHCカードの動作を保証するものではありません。対応のmicroSDカードは各microSDカードメーカへお問い合わせください。
- microSDカードのデータにアクセスしているときに、電源を切ったり衝撃を与えたりしないでください。データが壊れる恐れがあります。

◆ microSDカードの取り付け／取り外し

- microSDカードの取り外しは、マウントを解除するか電源を切ってから行ってください。

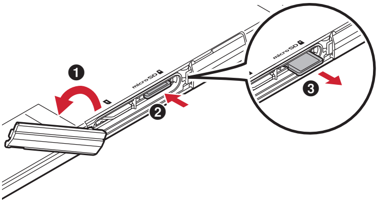
■ 取り付けかた

本端末のスロットキャップを開け（❶）、本端末裏側のmicroSDマークの向きに合わせてmicroSDカードの金属端子面を上に向けて、microSDカードを「カチッ」と音がするまで❷の方向に差し込む



■ 取り外しかた

本端末のスロットキャップを開け（❶）、microSDカードを❷の方向に軽く押し込んでから離し、microSDカードを❸の方向にまっすぐ引き出す



充電

◆ 卓上ホルダ充電の設定

付属の卓上ホルダ F35を使って充電する場合は、本設定を必ず確認してから充電を行ってください。

- 卓上ホルダを使わないで充電する場合は、本設定を変更する必要はありません。

1 アプリケーションメニューで[設定]→[初期設定]→[卓上ホルダ充電]→充電方法を選択

急速充電：付属のACアダプタ F05を接続して充電する場合に選択します。

通常充電：急速充電に対応していないACアダプタを接続して充電する場合に選択します。

◆ 卓上ホルダを使って充電

付属の卓上ホルダ F35とACアダプタ F05を使って充電してください。

① ACアダプタの電源ケーブル側とUSBケーブル側をつなぐ

② ACアダプタのmicroUSBプラグを、「B」の表記面を上にして、卓上ホルダ裏側の端子に差し込む

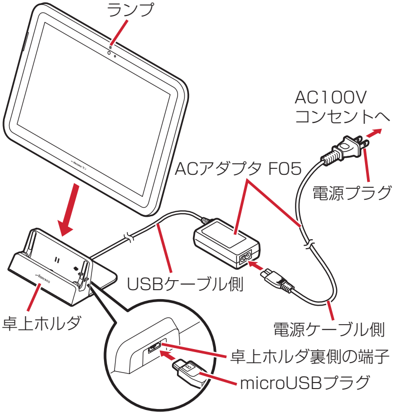
③ ACアダプタの電源プラグをAC100Vコンセントへ差し込む

④ 本端末を卓上ホルダに差し込む

- ランプが赤色に点灯するのを確認してください。充電が終了するとランプは消灯します。

⑤ 充電が終わったら、本端末を卓上ホルダから取り外す

⑥ ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、卓上ホルダからACアダプタのmicroUSBプラグを抜く



◆ ACアダプタを使って充電

付属のACアダプタ F05を使って充電します。

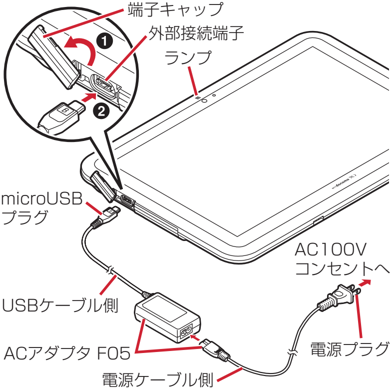
① **ACアダプタの電源ケーブル側とUSBケーブル側をつなぐ**

② **本端末の端子キャップを開け（❶）、ACアダプタのmicroUSBプラグを、「B」の表記面を上にして、外部接続端子に差し込む（❷）**

③ **ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込む**

- ランプが赤色に点灯するのを確認してください。充電が終了するとランプは消灯します。

④ **充電が終わったら、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、外部接続端子からACアダプタのmicroUSBプラグを抜く**



◆ パソコンを使って充電

付属のPC接続用USBケーブル T01で接続すると、本端末をパソコンから充電することができます。

- パソコン上にハードウェアの検索画面や実行する動作の選択画面などが表示されたら、「キャンセル」を選択してください。
- パソコンからの充電と卓上ホルダからの充電を同時に行うと、卓上ホルダの充電が優先されます。

電源ON／OFF

◆ 電源を入れる

1 **[⏻]（2秒以上）**

起動画面に続いて誤操作防止用のロック画面が表示されます。

2 **ロック画面の🔒を🔒までスライド**

- ロック画面→P33
- お買い上げ時は画面ロックが［認証なし］に設定されています。→P33

■ 初めて電源を入れたときは

- 画面の案内に従って設定を行います。次の設定は後から変更できます。
  - 言語の設定
  - Googleアカウントの設定
  - 位置情報サービスの設定
- ソフトウェア更新機能の確認画面が表示された場合は［OK］をタップします。
- ドコモminiUIMカードを取り付けていない場合は、Wi-Fiと日時の設定画面が表示されます。

◆ 電源を切る

1 **電源オプションメニューが表示されるまで、[⏻]を押し続ける**

- [⏻]を10秒以上押すと、強制的に電源を切ることができます。

2 **［電源を切る］**

再起動：**［再起動］**

基本操作

◆ タッチパネルの使いかた

本端末はタッチパネルを指で直接触れて操作します。

❖ タッチパネル利用上のご注意

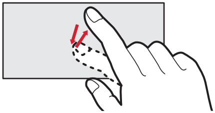
タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先の尖ったもの（爪／ボールペン／ピンなど）を押し付けたりしないでください。

- 次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
  - 手袋をしたままでの操作
  - 爪の先での操作
  - 異物を操作面に乗せたままでの操作
  - 保護シートやシールなどを貼っての操作
  - タッチパネルが濡れたままでの操作
  - 指が汗や水などで濡れた状態での操作

❖ タップ／ダブルタップ

タップ：画面に軽く触れてから離します。画面から指を離した時点で操作が有効になります。

ダブルタップ：すばやく2回続けてタップします。



例：タップ

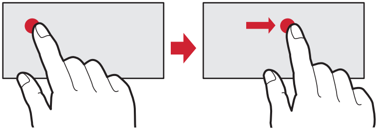
❖ ロングタッチ

画面に長く触れます。画面に指を触れたまま次の操作を行う場合もあります。

❖ドラッグ／スライド（スワイプ）／パン

ドラッグ：画面の項目やアイコンに指を触れたまま、任意の位置に動かします。
スライド（スワイプ）：画面に指を軽く触れたまま、目的の方向に動かします。
- アプリケーションによっては、数本の指を画面に触れたまま上下に動かしたり回転させたりして操作できます。

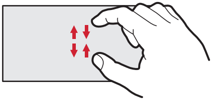
パン：画面そのものを任意の方向にドラッグして見たい部分を表示します。



例：ドラッグ

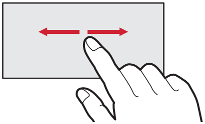
❖ピンチ

画面に2本の指で触れたまま、指の間隔を広げたり（ピンチアウト）、狭くしたり（ピンチイン）します。



❖フリック

画面に触れた指をすばやく払います。



◆縦／横画面表示の切り替え

向きや動きを検知するモーションセンサーによって、本端末を縦または横に傾けて、画面表示を切り替えることができます。
- 表示中の画面によっては、本端末の向きを変えても画面表示が切り替わらない場合があります。

◆スクリーンショット

本端末に表示されている画面を画像として保存します。
- 画面によっては画像を保存できない場合があります。

1 [⏻]と[▶]（音量小キー）を同時に押す（1秒以上）

通知パネルを開いてスクリーンショットの通知をタップ、またはアプリケーションメニューで［ギャラリー］→［Screenshots］をタップすると、画像を確認できます。

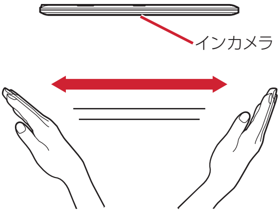
ハンドジェスチャーコントロール

ハンドジェスチャーコントロールとは、インカメラの前で手を振るだけで、タッチパネルに触れずに操作できる機能です。少し離れた位置や濡れた手でも、画面を操作することができます。

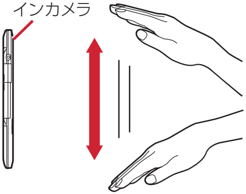
- 本機能が起動中は、画面が表示されたままとなり、インカメラが手を検出できる状態を保つため、電池の消費が早くなります。

❖ハンドジェスチャーコントロール利用時のご注意

- ハンドジェスチャーコントロールを利用する際は、卓上ホルダに置くなど固定させた状態でご利用ください。
- 手が正しく検出されるように、次の点にご注意ください。
  - インカメラと手の距離が約40cm～約60cm、角度がインカメラの中心から上下に約15度、左右に約20度となるようにしてください。
  - インカメラに向かって手を上下左右に振ってください。



例：手を左右に振る



例：手を上下に振る

  - ハンドジェスチャーコントロール操作を行った際は、ハンドジェスチャーコントロールを受け付けた方向を示すマークが表示されます。マークが表示されている間は、マークの示す方向以外のハンドジェスチャーコントロール操作は無効となります。マークが消えてから操作してください。
  - 左右どちらの手でも操作できますが、両手で同時に操作できません。
  - 手袋をしたまま操作すると、正しく検出されない場合があります。
  - 使用する環境（部屋の明るさ、着衣、背景、光源など）によっては、手を正しく検出できない場合があります。
- 手の振りかたなどによっては、正しく検出できない場合があります。
- カメラの近くで大きな動作をすると、誤って検出される場合があります。
- 本機能を起動すると、［画面の自動回転］の設定が無効となり、画面が自動回転しません。インカメラが画面の上に位置する状態で操作してください。また、本機能終了後も画面の自動回転が無効のままとなるため、再度利用する場合は設定し直してください。
- カメラ／ビデオ撮影時は同時に利用できません。カメラを起動すると、本機能は終了します。
- DLNA対応機器連携で利用する場合は、プレーヤーがサーバーと接続されている必要があります。

❖利用できる主な機能と操作

手を上下左右に振ることで、次のような操作ができます。
- 他の機能でも同等に操作できる場合があります。

■ ブラウザ

上下左右：画面の縦横スクロール

■ ワンセグ

上下：音量調整
左右：チャンネル切り替え

■ DLNA

上下：音量調整
左右：動画のスキップ

■ ギャラリー

左右：画像表示中に前後の画像に切り替え

◆ハンドジェスチャーコントロールの利用

ハンドジェスチャーコントロールとアプリケーションを同時に起動しておく必要があります。
- アプリケーションを起動する前後どちらでもハンドジェスチャーコントロールを起動できます。

1 ステータスバーの時計から右側をタップ→[アイコン]→ハンドジェスチャーコントロールをON／OFFにする

ONにするとステータスバーに[アイコン]が表示されます。

2 アプリケーションでハンドジェスチャーコントロールの操作を行う

- 画面オフの状態にすると、ハンドジェスチャーコントロールはOFFになります。

初期設定

本端末を使うために最初に設定が必要な項目をまとめて設定できます。
- 各設定はいつでも変更できます。

1 アプリケーションメニューで[設定]→[初期設定]

2 各項目を設定

画面ロック：画面ロックについて設定します。
ホーム壁紙：ホーム画面の壁紙を設定します。
フォトスクリーン：ロック画面の背景画像を設定します。
電話帳コピー：電話帳のコピーをします。
Googleアカウント：Googleアカウントを設定します。
- GoogleアプリケーションのGoogle利用やGoogle Playからのダウンロードなどが可能となります。画面の案内に従って操作してください。

卓上ホルダ充電：卓上ホルダで充電する際の充電方法を設定します。→P20

❖その他の初期設定について

初期設定の項目以外にも、必要に応じて、次の項目を設定してください。
- Eメールのアカウントの設定→P43
- Wi-Fi機能の設定→P39
- アクセスポイント（APN）の設定→P37

画面表示／アイコン

◆ステータスバーのアイコン

ステータスバーに表示される通知アイコンとステータスアイコンで様々な状態を確認できます。



■ 主な通知アイコン

- ：新着Gmail
- ：新着Eメール
- ：spモードメール
- ：新着SMS
- ：エリアメール
- ：SMSの送信失敗
- ：Wi-FiがONでWi-Fiネットワークが利用可能
- ：Wi-Fiテザリングが有効
- ：USB接続中
- ：USBテザリングが有効
- ：Wi-FiテザリングとUSBテザリングが有効
- ：データのアップロード完了
- ：データのダウンロード完了
- ：Google Playなどからのアプリケーションがインストール完了
- ：イヤホン接続中（端末のマイクからの入力）
- ：イヤホン接続中（イヤホンマイクからの入力）
- ：ワンセグ受信中
- ：ワンセグ録画中
- ：ソフトウェア更新有
- ：ソフトウェア更新完了
- ：ソフトウェア更新継続不可
- ：NX!エコ（タイマーエコモード設定1）
- ：NX!エコ（タイマーエコモード設定2）
- ：NX!エコ（電池残量エコモード）
- ：NX!エコ（今すぐエコモード）
- ：GPS測位中
- ：VPN接続

■ 主なステータスアイコン

- ：電波状態
  - 通信中は▲（アップロード時）▼（ダウンロード時）が表示されます。
  - 国際ローミング中は左上に［R］が表示されます。
- ：圏外
- ：GPRS接続中
- ：3G接続中
- ：LTE接続中
- ：機内モード
- ：Wi-Fi接続中
- ：Bluetooth機能ON
- ：Bluetooth機器接続中
- ：要充電
- ：電池残量がほとんどない
- ：電池残量が少ない
- ：電池残量十分
- ：充電中
- ：マナーモード（通常マナー）
- ：マナーモード（サイレントマナー）
- ：マナーモード（アラームONマナー）
- ：マナーモード（オリジナルマナー）
- ：ハンドジェスチャーコントロールON

ホーム画面

ホーム画面はアプリケーションを使用するためのスタート画面です。をタップしていつでも呼び出すことができます。



① Google検索／音声検索
② アプリケーションメニューを表示→P28
③ ホーム画面のカスタマイズ画面を表示→P27
④ カスタマイズエリア
⑤ 左右にあるホーム画面の数
⑥ 直前の画面に戻る、アプリケーションの終了
⑦ ホーム画面を表示
⑧ タスク管理
⑨ ステータスバー→P26

◆ ホーム画面のカスタマイズ

ホーム画面に好みのアプリケーションのショートカットやウィジェットを自由に配置したり、壁紙を変更したりできます。また、画面のカラーテーマやスタイルを変更することもできます。

❖ウィジェットやショートカットの追加

1 ホーム画面で

2 ［ウィジェット］／［アプリ］／［その他］→追加したい画面に項目をドラッグ

ホーム画面に項目が貼り付けられます。
- 貼り付けた項目をロングタッチしてドラッグすると、位置を変更できます。
- ウィジェットによっては、ロングタッチしてサイズを変更することができます。

❖ショートカットやウィジェットの削除

1 左右にフリックしてカスタマイズしたいホーム画面を表示

2 削除するショートカットやウィジェットをロングタッチ→そのまま 削除 にドラッグ→アイコンが赤色に変わったら指を離す

❖ホーム画面の壁紙の変更

1 ホーム画面で

2 ［壁紙］→［ギャラリー］／［ライブ壁紙］／［壁紙］→項目の選択や設定を行う

- ［ギャラリー］をタップして画像を選択した場合は、トリミング枠の内部をドラッグして位置を指定し、トリミング枠をドラッグしてサイズを指定した後、［トリミング］をタップします。
- ［ライブ壁紙］をタップして画像を選択した場合は、［壁紙に設定］をタップして設定します。画像によっては、［設定］をタップして画像の詳細設定ができます。

❖カラーテーマやスタイルの変更

1 **ホーム画面で＋**

2 **[スタイル]→[カラーテーマ変更]／[スタイル変更]→カラーテーマやスタイルを選択**

- ［スタイル変更］をタップした場合は、［＋新規作成］をタップしてスタイルを作成・設定することもできます。
- スタイルの選択画面でスタイルをロングタッチし、そのまま「削除」にドラッグしてアイコンが赤色に変わったら指を離し、［はい］をタップすると削除できます。

アプリケーション画面

アプリケーションメニューを呼び出し、登録されているアプリケーションを起動したり、本端末の設定を変更したりできます。

- アプリケーションによっては、起動時に「画面適合ズーム」の確認画面が表示されます。［OK］をタップすると、アプリケーションの表示サイズが本端末に合わせられ、次回から確認画面は表示されません。ステータスバーのアイコンをタップすると、表示サイズを変更できます。

◆ アプリケーションメニューの表示

1 **ホーム画面で「アプリ」**

アプリケーションメニューが表示されます。

ソートして表示：［ソート］→［名前順］／［ダウンロード順］／［利用頻度順］／［カスタマイズ順（編集に従う）］

ページ切り替え：左右にフリック

文字入力

ディスプレイに表示されるソフトウェアキーボードを使って、文字を入力します。

- ここでは、主にNX!input powered by ATOKでの入力について説明します。

◆ キーボードの使いかた

テンキーキーボード、QWERTYキーボード、手書きキーボード、50音キーボードを使って文字を入力できます。

- 各キーボードから、音声文字入力を起動することもできます。

■ テンキーキーボード

入力方式の設定により、ケータイ入力、ジェスチャー入力、ジェスチャー入力Pro、フリック入力の4種類の入力方式を使用できます。→P30



■ QWERTYキーボード

ローマ字入力で入力します。



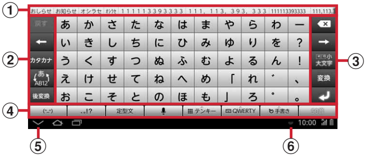
■ 手書きキーボード

手書きで文字を入力します。



■ 50音キーボード

50音順、アルファベット順で入力します。





英数入力モード時

① 変換候補表示領域：文字を入力したときに変換候補を表示、選択

- 変換候補の表示領域を左右にスライドすると隠れている候補を表示できます。キーボードによっては、変換候補の下に、確定前の文字列が表示されます。
- 文字入力欄によっては、変換候補が表示されない場合があります。

② 戻す：直前に確定した文字を変換前の文字に戻す

↺：テンキーキーボードでの入力で、キーに割り当てられた文字を逆順に表示

←：カーソルを左に移動

↑／↓：カーソルを上下に移動

あ／ABC／AB12：入力モードの切り替え（かな・英字・数字）／（かな・英字）／（かな・英数字）

- ロングタッチすると、NX!inputメニューでATOKの設定や単語登録ができます。

ひらがな／カタカナ：ひらがな／カタカナの切り替え

⇧：英字入力時の大文字と小文字の切り替え

- 50音キーボードではタップするたびに、大文字→大文字固定→小文字に切り替わります。
- 各キーを上にフリックしても、大文字で入力できます。

Caps Lock：大文字固定に設定／解除

記号数字：数字記号入力モードに切り替え

- 各キーを下にフリックしても、キーに割り当てられている数字や記号を入力できます。

∧：絵文字、顔文字、記号、定型文、文字コードの入力、パスワードマネージャーや連絡先の引用入力のメニューに切り替え

- キーボードの非表示の操作にも利用します。

後変換：かな／全角カタカナ／半角カタカナ、英字の後変換候補から選択

カナ英数：カタカナ／数字／英数／年月日（全角／半角）などに変換

③ ⌫／Clear：カーソルの左側の文字を削除

→：カーソルを右に移動

大文字／大文字：小文字・濁点・半濁点／大文字の切り替え

- 現在の設定は水色で表示されます。

全角半角／全角半角：全角／半角の切り替え

- 現在の設定は水色で表示されます。

変換／␣：文字の変換／空白の入力

Next／↵：次の入力項目にカーソル移動／確定または改行

- この他にも、Go、🔍、Doneなど、機能が変化する場合があります。

◀／▶：手書きキーボードで左右の表示枠に1文字分だけ移動

④ テンキー／QWERTY／手書き／50音：キーボードの切り替え
(^_^)／、。!?／定型文／絵文字：顔文字／記号／定型文（spモードメール本文入力時以外）／絵文字（spモードメール本文入力時）の入力
音声入力：音声入力の起動
テンキー：ロングタッチでテンキーキーボードの位置の切り替え
- テンキーキーボードの上で2本の指で移動方向にドラッグしても位置を切り替えられます。

QWERTY：ロングタッチでQWERTYキーボードの分割キーボードと通常キーボードの切り替え
- QWERTYキーボードの上でピンチアウト、ピンチインしても切り替えられます。

手書き：ロングタッチで手書きキーボードの枠数の切り替え

⑤ ∨：キーボードの非表示
⑥ ⌨：キーボードの各種設定
⑦ 手書き入力領域：指で文字を書いて入力
- 入力確定していない文字をタップすると、補正候補の文字が表示されます。文字をタップすると入れ替えることができます。
- 右端の枠に文字を書くと、自動的にスクロールして左端の枠に移動します。
- QWERTYキーボードで、左右にキーボードを分けたときは中央に表示されます。
- |||をスライドすると隠れた入力領域を表示できます。

❖キーボードの表示／非表示

■ キーボードの表示

1 文字入力欄を選択

■ キーボードの非表示

1 キーボード表示中に∨

❖テンキーキーボードの入力方式

テンキーキーボードでは、次の4つの入力方式を利用できます。
- ソフトウェアキーボードの設定で入力方式を選択します。

■ ケータイ入力

入力したい文字が割り当てられているキーを、目的の文字が表示されるまで続けてタップします。

■ ジェスチャー入力

入力したい文字が割り当てられているキーをタッチしたままにすると、キーの周りに文字（ジェスチャーガイド）が表示されますので、指を離さず目的の文字までスライドします。
- 濁音／半濁音／拗音を入力するには、キーから指を離さず下に1回または2回スライドします。キーの周りに濁音／半濁音／拗音のジェスチャーガイドが表示されますので、指を離さず目的の文字までスライドします。



例：「ぱ」を入力する場合

- 英字入力モードの場合は、キーをタッチした指を離さず下にスライドすると、大文字／小文字を切り替えることができます。

■ ジェスチャー入力Pro

ジェスチャーガイドの表示／非表示やジェスチャーガイドが表示されるまでの速さを設定できます。

■ フリック入力

入力したい文字が割り当てられているキーをタッチしたままにすると、キーの上に文字（フリックガイド）が表示されます。指を離さず目的の文字の方向にフリックします。
- 濁音／半濁音／拗音を入力するには、フリックしたあと゛゜小を1回または2回タップします。

◆ 便利な入力機能

❖電話帳から引用して入力

1 →

2 [電話帳／ATOKダイレクト]→連絡先リストで名前を選択→引用する項目にチェック→[OK]

◆ テキスト編集

文字入力欄、Webサイトやドキュメント、受信メールなどのテキストコピー、文字入力欄でのテキストの切り取り、貼り付けの操作ができます。

- アプリケーションの種類によって、操作方法が異なる場合があります。

❖テキストのコピー／切り取り

1 テキスト上をロングタッチ

選択されたテキストがハイライト表示されます。

- ［すべて選択］をタップして選択することもできます。
- テキスト範囲の両端にあるつまみをスライドすると選択範囲を調節できます。
- 選択範囲を解除するには、選択範囲外をタップするか、［完了］をタップします。

2 [コピー]／[切り取り]

❖テキストの貼り付け

1 貼り付け位置にカーソルを移動→テキスト上をロングタッチ→[貼り付け]

カーソル位置にクリップボードのテキストが貼り付けられます。

- 範囲選択してから［貼り付け］をタップすると、選択範囲が貼り付けたテキストで上書きされます。

ロック／セキュリティ

◆ 本端末で利用する暗証番号

本端末を便利にお使いいただくための各種機能には、暗証番号が必要なものがあります。本端末をロックするためのパスワードやネットワークサービスでお使いになるネットワーク暗証番号などがあります。用途ごとに上手に使い分けて、本端末を活用してください。

各種暗証番号に関するご注意

- 設定する暗証番号は「生年月日」、「電話番号の一部」、「所在地番号や部屋番号」、「1111」、「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一暗証番号が他人に悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）や本端末、ドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。詳細は本書巻末の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コード（PUK）は、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書（お客様控え）に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）とドコモminiUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、本書巻末の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

❖ネットワーク暗証番号

ドコモショップまたはドコモインフォメーションセンターでのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字4桁の番号です。ご契約時に任意の番号を設定いただきますが、お客様ご自身で番号を変更できます。
パソコン向け総合サポートサイト「My docomo」の「docomoID／パスワード」をお持ちの方は、パソコンから新しいネットワーク暗証番号への変更手続きができます。なおdメニューからは、dメニュー→「お客様サポートへ」→「各種お申込・お手続き」からお客様ご自身で変更ができます。

※「My docomo」「お客様サポート」については、本書巻末の1つ前のページ（eトリセツでは、「付録」の「マナーもいっしょに携帯しましょう」）をご覧ください。

❖PINコード

ドコモminiUIMカードには、PINコードという暗証番号を設定できます。ご契約時は「0000」に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます。
PINコードは、第三者による本端末の無断使用を防ぐため、ドコモminiUIMカードを取り付ける、または本端末の電源を入れるたびに使用者を認識するために入力する4～8桁の番号（コード）です。PINコードを入力することにより、端末操作ができます。

- 別の端末で利用していたドコモminiUIMカードを差し替えてお使いになる場合は、以前にお客様が設定されたPINコードをご利用ください。設定を変更されていない場合は「0000」となります。
- PINコードの入力を3回連続して間違えると、PINコードがロックされて使えなくなります。この場合は、「PINロック解除コード」でロックを解除してください。ロックを解除しないと新しいPINコードは設定できません。
- ドコモminiUIMカードがPINロックまたはPUKロックされた場合は、ドコモminiUIMカードを取り外すことでホーム画面が表示されるようになり、Wi-Fi接続による通信が可能です。

❖PINロック解除コード（PUK）

PINロック解除コードは、PINコードがロックされた状態を解除するための8桁の番号です。なお、PINロック解除コードはお客様ご自身では変更できません。

- PINロック解除コードの入力を10回連続して間違えると、ドコモminiUIMカードがロックされます。その場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。
- ドコモminiUIMカードがPINロックまたはPUKロックされた場合は、ドコモminiUIMカードを取り外すことでホーム画面が表示されるようになり、Wi-Fi接続による通信が可能です。

◆ PINコードの設定

❖SIMカードロックの設定

電源を入れたときにPINコードを入力するように設定します。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[セキュリティ]→[SIMカードロック設定]**

2 **[SIMカードをロック]→PINコードを入力→[OK]**

✔**お知らせ**

- 初めてPINコードを入力する場合は、「0000」を入力してください。

❖PINロックの解除

PINコードがロックされた場合は、ロックを解除してから新しいPINコードを設定します。

1 PUKコード欄にPINロック解除コードを入力

2 新しいPINコード欄に新しいPINコードを入力→[OK]

◆ 画面ロック

画面ロックを設定するとスリープモードから復帰したときや電源を入れたときに、認証操作が必要となるので、他人が不正に本端末を使用するのを防ぐことができます。

❖画面ロックの設定

ロック解除方法を設定して画面ロックを有効にします。

1 アプリケーションメニューで[設定]→[セキュリティ]→[画面ロックの設定]

- 画面ロックが有効になっているときは、[画面ロックの設定]をタップしたあとにロック解除操作が必要です。

2 [OFF]／[認証なし]／[顔認証]／[パターン入力]／[暗証番号入力]／[パスワード入力]

ロックをかけない：[OFF]
セキュリティで保護しない：[認証なし]
- ロック解除画面を表示しますが、セキュリティで保護されません。

顔認証で解除：[顔認証]→[セットアップ]→[続行]→ガイド枠に顔を合わせる→[次へ]→バックアップのロックを選択→ロック解除方法を設定→[OK]

パターンの入力で解除：[パターン入力]→垂直、水平、対角線方向に最低4つの点を結ぶようにスライドしてパターンを入力→[次へ]→同じパターンを入力→[確認]
- 初めて設定するときは、パターン例が表示されます。

暗証番号の入力で解除：[暗証番号入力]→4～16桁の暗証番号を入力→[次へ]→暗証番号を再入力→[OK]

パスワードの入力で解除：[パスワード入力]→アルファベットを含む4～16桁のパスワードを入力→[次へ]→パスワードを再入力→[OK]

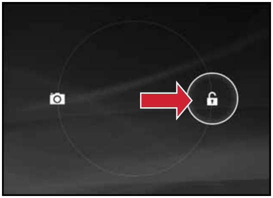
❖画面ロックの解除

1 スリープモード中に[電源]

- 電源を入れたときは、起動画面のあとにロック画面が表示されます。

2 画面ロック設定の種類に応じて解除操作

[認証なし]の場合：ロック画面のをまでスライド



[顔認証]の場合：ディスプレイに顔を向ける
[パターン入力]の場合：パターンを入力
[暗証番号入力]の場合：暗証番号を入力→[OK]
[パスワード入力]の場合：パスワード入力欄をタップ→パスワードを入力

✔お知らせ

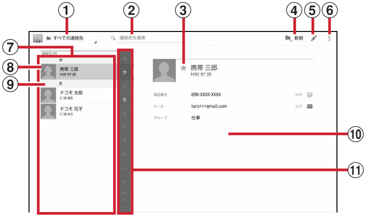
- 画面ロック設定が[認証なし]の場合は、ロック画面で通知パネルを表示できます。

連絡先

連絡先の使いかた

連絡先には電話番号やメールアドレスなどを入力できます。連絡先から簡単な操作で登録した人に連絡できます。

1 アプリケーションメニューで[連絡先]



連絡先画面

① すべての連絡先
表示する連絡先のグループを選択します。

② 連絡先を検索
タップしてキーワードを入力し、連絡先を検索します。

③ ☆
タップすると連絡先のグループ「スター付き」に登録されます。

④ 新規
連絡先を新規登録します。

⑤
連絡先を編集します。

⑥
連絡先のサブメニューを表示します。

⑦ 連絡先リスト
連絡先を選択できます。連絡先リスト上でタップすると、インデックスが表示されます。

⑧ 名前
タップして個人情報画面に情報を表示します。

⑨ インデックスバー

⑩ 個人情報画面
選択した相手の個人情報を表示します。項目をタップして、SMSやEメール送信ができます。

⑪ インデックス
文字や名前を選択して連絡先を検索できます。連絡先リストをタップ→インデックスの文字を選択→そのまま次の階層の文字までスライド→そのまま登録済みの名前までスライドすると、選択した連絡先が連絡先リストの先頭に表示されます。ただし、登録件数が少ないと先頭に表示されない場合があります。

◆ 連絡先を登録

1 連絡先画面で[新規]→必要に応じてアカウントを選択→各項目を設定→[完了]

◆ 連絡先の編集

1 連絡先画面で編集したい連絡先を選択→[編集]→変更したい項目を入力→[完了]

◆ 連絡先の削除

1 連絡先画面で削除したい連絡先を選択→[メニュー]→[連絡先を削除]→[OK]

- 連絡先画面で[メニュー]→［連絡先を選択削除］をタップすると、削除したい連絡先を選択して削除が可能です。［全て選択］をタップすると、全件削除できます。

◆ 連絡先のインポート／エクスポート

1 連絡先画面で⋮→[インポート／エクスポート]→項目を選択→それぞれの操作を行う

SIMカードからインポート：ドコモminiUIMカードに保存した連絡先から追加したい連絡先を指定してインポートします。

SIMカードにエクスポート：指定した連絡先をドコモminiUIMカードにエクスポートします。エクスポートされる内容は名前／1件目の電話番号／1件目のメールアドレスのみとなり、最大50件まで保存できます。ただし、電話番号とメールアドレスの属性はエクスポートされません。また、上書きでエクスポートする場合、ドコモminiUIMカード内の連絡先を全て削除してからエクスポートされますので、ご注意ください。

SDカードからインポート：microSDカードに保存されている連絡先データ（vCardファイル）を、指定したアカウントに登録します。ファイルが複数ある場合は、登録するファイルを選択します。

SDカードにエクスポート：「プロフィール」を除く連絡先データ（vCardファイル）を、microSDカードに全件保存します。

表示可能な連絡先を全件送信：連絡先データをBluetooth通信やF-LINKもしくはメールに添付して全件送信します。

✔お知らせ

- 他の端末との間で連絡先データの全件受け渡しをしたい場合は、電話帳コピーツール（→P35）をご利用ください。
- スマートフォン以外の端末への全件送信には、必ず電話帳コピーツールをご利用ください。Bluetooth通信での全件送信を行うと、正常にデータが移行できません。

電話帳コピーツール

microSDカードを利用して、他の端末との間で電話帳データをコピーできます。また、Googleアカウントに登録された電話帳データをdocomoアカウントにコピーできます。

1 アプリケーションメニューで[電話帳コピーツール]

- はじめてご利用される際には、「使用許諾契約書」に同意いただく必要があります。

◆ 電話帳をmicroSDカードにエクスポート

1 microSDカードを本端末に取り付ける

2 [エクスポート]タブ画面で[開始]

docomoアカウントに保存されている電話帳データがmicroSDカードに保存されます。

◆ 電話帳をmicroSDカードからインポート

1 電話帳データが保存されたmicroSDカードを本端末に取り付ける

2 [インポート]タブ画面でインポートしたいファイルを選択→[上書き]／[追加]

インポートした電話帳データはdocomoアカウントに保存されます。

◆ Googleアカウントの連絡先をdocomoアカウントにコピー

1 [docomoアカウントへコピー]タブ画面でコピーしたいGoogleアカウントを選択→「上書き」／「追加」

コピーした電話帳データはdocomoアカウントに保存されます。

プロフィールの編集

ご契約電話番号を確認できます。また、ご自身の情報を入力、編集できます。

1 アプリケーションメニューで[連絡先]→⋮→[プロフィール]→✎→各項目を設定→[完了]

各種設定

設定メニュー

アプリケーションメニューで［設定］を選択して表示される設定メニューから、各種設定を行います。

初期設定：本端末を使うために最初に設定が必要な項目をまとめて設定できます。

■ 無線とネットワーク

Wi-Fi：Wi-FiネットワークとWi-Fiの詳細設定などを行います。

Wi-Fi簡単登録：簡単な操作で無線LANアクセスポイントに接続できます。

Bluetooth：Bluetooth機能の設定を行います。

データ使用：LTE／3G／GSMネットワークの利用や、パケット通信でのデータ量の設定などを行います。

その他：機内モードやテザリングなどの設定を行います。

■ 端末

音・振動：マナーモードやバイブレーション、着信音などの設定を行います。

ディスプレイ：画面の明るさやフォントなどの設定を行います。

マルチメディア：動画や音楽を再生するときのDolby Mobile機能を設定します。

ストレージ：空き容量表示やmicroSDカードのデータ消去などを行います。

電池：電池残量や電池使用量などを表示します。

NX!エコ：画面の明るさや各種機能を調整して消費電力を抑えます。

アプリケーション：アプリケーションに関する設定を行います。

■ ユーザー設定

アカウントと同期：アカウントや同期に関する設定を行います。

位置情報サービス：現在地情報の設定やGPS機能などの使用について設定します。

セキュリティ：画面ロックやパスワードなどの設定を行います。

言語と入力：使用言語やキーボードの設定、テキスト読み上げの設定などを行います。

バックアップとリセット：データの初期化などを行います。

■ システム

日付と時刻：日付や時刻に関する設定を行います。

ユーザー補助：ユーザー操作を補助する設定を行います。

開発者向けオプション：USBデバッグや擬似ロケーション、ユーザーインターフェース、アプリケーションなどのソフトウェア開発者用機能の設定を行います。

端末情報：本端末の各種情報を表示します。

無線とネットワーク

◆ アクセスポイント（APN）の設定

インターネットに接続するためのアクセスポイント（spモード、mopera U）はあらかじめ登録されており、必要に応じて追加、変更することもできます。

- お買い上げ時には、通常使う接続先としてspモードが設定されています。
- テザリングを有効にしているときは、アクセスポイントの設定はできません。

❖アクセスポイントの追加（新しいAPN）

- MCCを440、MNCを10以外に変更しないでください。画面上に表示されなくなります。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[モバイルネットワーク]→[アクセスポイント名]**

2 **→[新しいAPN]**

3 **[名前]→ネットワークプロファイル名を入力→[OK]**

4 **[APN]→アクセスポイント名を入力→[OK]**

5 **その他、通信事業者によって要求されている項目を入力→**

✔お知らせ

- MCC、MNCの設定を変更してアクセスポイント名画面に表示されなくなった場合は、初期設定にリセットするか、［新しいAPN］で再度アクセスポイントの設定を行ってください。

❖アクセスポイントの初期化

アクセスポイントを初期化すると、お買い上げ時の状態に戻ります。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[モバイルネットワーク]→[アクセスポイント名]**

2 **→[初期設定にリセット]**

❖spモード

spモードはNTTドコモのスマートフォン向けISPです。インターネット接続に加え、ｉモードと同じメールアドレス（@docomo.ne.jp）を使ったメールサービスなどがご利用いただけます。

- spモードはお申し込みが必要な有料サービスです。spモードの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

❖mopera Uの設定

mopera UはNTTドコモのISPです。mopera Uにお申し込みいただいたお客様は、簡単な設定でインターネットをご利用いただけます。

- mopera Uはお申し込みが必要な有料サービスです。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[モバイルネットワーク]→[アクセスポイント名]**

2 **[mopera U]／[mopera U設定]**

✔お知らせ

- ［mopera U設定］は、mopera U設定用アクセスポイントです。mopera U設定用アクセスポイントをご利用いただくと、パケット通信料がかかりません。なお、初期設定画面および設定変更画面以外には接続できないのでご注意ください。mopera U設定の詳細については、mopera Uのホームページをご覧ください。

◆ Wi-Fi

本端末のWi-Fi機能を利用して、自宅や社内ネットワーク、公衆無線LANサービスの無線LANアクセスポイントに接続して、メールやインターネットを利用できます。
無線LANアクセスポイントに接続するには、接続情報を設定する必要があります。

❖ Wi-FiをONにしてネットワークに接続

1 アプリケーションメニューで[設定]

2 [Wi-Fi]を[ON]
- 通知パネルの設定スイッチでもON／OFFを設定できます。

3 [Wi-Fi]→Wi-Fiネットワークを選択
- セキュリティで保護されたWi-Fiネットワークを選択した場合、パスワード（セキュリティキー）を入力し、［接続］をタップします。
- Wi-Fiネットワークを選択後、接続を選択する画面が表示される場合があります。

✔お知らせ
- Wi-Fi機能がONのときもパケット通信を利用できます。ただしWi-Fiネットワーク接続中は、Wi-Fiが優先されます。Wi-Fiネットワークが切断されると、自動的にLTE／3G／GSMネットワークでの接続に切り替わります。切り替わったままでご利用になる場合は、パケット通信料が発生しますのでご注意ください。
- アクセスポイントを選択して接続するときに誤ったパスワード（セキュリティキー）を入力した場合、［プライベートなIPアドレスが割り当てられました。接続が制限されています。］と表示されます。パスワード（セキュリティキー）をご確認ください。なお、正しいパスワード（セキュリティキー）を入力しても［プライベートなIPアドレスが割り当てられました。接続が制限されています。］と表示されるときは、正しいIPアドレスを取得できていない場合があります。電波状況をご確認の上、接続し直してください。

❖ Wi-Fiネットワークの追加

ネットワークSSIDやセキュリティを入力して、手動でWi-Fiネットワークを追加します。
- あらかじめWi-FiをONにしてください。

1 アプリケーションメニューで[設定]→[Wi-Fi]

2 [ネットワークを追加]

3 追加するWi-FiネットワークのネットワークSSIDを入力→セキュリティを選択
- セキュリティは［なし］［WEP］［WPA/WPA2 PSK］［802.1x EAP］が設定可能です。

4 必要に応じて追加のセキュリティ情報を入力→[保存]

❖ Wi-Fiネットワークの切断

1 アプリケーションメニューで[設定]→[Wi-Fi]

2 接続しているWi-Fiネットワークを選択→[切断]

✔お知らせ
- Wi-FiをOFFにしてWi-Fiネットワークを切断した場合、次回Wi-FiのON時に接続可能なWi-Fiネットワークがあるときは、自動的に接続されます。

◆ Wi-Fiネットワークの簡単登録

AOSS™またはWPSに対応した無線LANアクセスポイントを利用して接続する場合は、簡単な操作で接続できます。

1 アプリケーションメニューで[設定]→[Wi-Fi簡単登録]

2 登録方式を選択

AOSS™方式：[AOSS方式] →アクセスポイント側でAOSS™ボタンを押す

WPS方式：[WPS方式] → [プッシュボタン方式] ／ [PIN入力方式] →アクセスポイント側で操作

- プッシュボタン方式の場合は、アクセスポイント側で専用ボタンを押します。PIN入力方式の場合は、本端末に表示されたPINコードをアクセスポイント側で入力後、[OK] をタップします。

✔お知らせ

- 無線LANアクセスポイントによっては、AOSS™方式での接続ができない場合があります。接続できない場合はWPS方式または手動で接続してください。

◆ テザリング

テザリングとは、スマートフォンなどのモバイル機器をモデムとして使用することにより、USBケーブルやWi-Fiで接続した外部接続機器を、インターネットに接続できるようにする機能です。

- テザリングを有効にした状態では、インターネット接続・メールサービス以外のspモードの機能をご利用になれません。
- テザリングを利用してインターネットに接続した場合、ご利用の環境によってはWi-Fi対応機器のブラウザやゲームなどのアプリケーションが正常に動作しない場合があります。

❖USBテザリング

本端末を付属のPC接続用USBケーブル T01でパソコンと接続し、モデムとして利用することでインターネットに接続できます。

1 本端末とパソコンをUSBケーブルで接続

2 アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[テザリング]

3 [USBテザリング]にチェック

- Windows XPパソコンをお使いの場合はUSBテザリングをOFFにせずに、パソコンからUSBケーブルを取り外してください。

4 注意事項の詳細を確認して[OK]

✔お知らせ

- USBテザリングに必要なパソコンの動作環境は次のとおりです。なお、OSのアップグレードや追加・変更した環境での動作は保証いたしかねます。
  - Windows XP（Service Pack 3以降)、Windows Vista、Windows 7
- Windows XPパソコンでUSBテザリングを行うには、パソコン側に専用ドライバをインストールする必要があります。専用ドライバのダウンロードについては、次のサイトをご覧ください。
  http://www.fmworld.net/product/phone/usb/

❖Wi-Fiテザリング

本端末をWi-Fiアクセスポイントとして利用することで、Wi-Fi対応機器をインターネットに接続できます。

- Wi-Fi対応機器を8台まで同時接続できます。
- 日本国内では1～13チャンネル、国外では1～11チャンネルの周波数帯を利用できます。

❖Wi-Fiテザリングの設定

Wi-FiテザリングをONにして、接続の設定を行います。

- お買い上げ時の状態では、セキュリティには［WPA/WPA2 PSK］が、［パスワード］にはランダムな値が設定されています。必要に応じてセキュリティの設定を行ってください。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[テザリング]**

2 **[Wi-Fiテザリング]にチェック**

- 通知パネルの設定スイッチでもON／OFFを設定できます。

3 **注意事項の詳細を確認して[OK]**

4 **[ネットワークSSID]→ネットワークSSIDを入力**

- お買い上げ時には、「F-01D_AP」が設定されています。
- 登録済みの設定を変更する場合は、［Wi-Fiアクセスポイントを設定］を選択すると設定画面が表示されます。

5 **[セキュリティ]→セキュリティを選択**

- セキュリティは［Open］［WEP64］［WEP128］［WPA PSK TKIP］［WPA PSK AES］［WPA2 PSK TKIP］［WPA2 PSK AES］［WPA/WPA2 PSK］が設定可能です。

6 **[パスワード]→パスワードを入力→[保存]**

❖Wi-Fi対応機器の簡単登録

AOSS™またはWPSに対応したWi-Fi対応機器を登録します。

- あらかじめWi-FiテザリングをONにしてください。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[その他]→[テザリング]→[Wi-Fi簡単登録]**

2 **登録方式を選択**

AOSS™方式：**［AOSS方式］→Wi-Fi対応機器側でAOSS™ボタンを押す**

WPS方式：**［WPS方式］→［プッシュボタン方式］／［PIN入力方式］→各種操作→登録画面で［OK］**

- プッシュボタン方式の場合は、Wi-Fi対応機器側で専用ボタンを押します。PIN入力方式の場合は、Wi-Fi対応機器に表示されたPINコードを入力後、［OK］をタップします。

✔お知らせ

- AOSS™登録機器数が最大件数の24件を超えると、古い登録データの削除確認画面が表示されます。新たな機器でAOSS™接続を利用する場合は［はい］をタップしてください。
- AOSS™設定を解除するには、［Wi-Fiアクセスポイントを設定］画面で［AOSS解除］をタップします。
- Wi-Fi対応機器によっては、AOSS™方式での接続ができない場合があります。接続できない場合はWPS方式または手動で接続してください。

バックアップとリセット

◆ データのバックアップと自動復元

Googleのサーバーを利用して、データのバックアップ／復元を行います。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[バックアップとリセット]**

2 **[データのバックアップ]／[バックアップアカウント]／[自動復元]**

データのバックアップ：アプリケーションデータや各種設定を保存します。
- 画像や音楽などは保存できません。

バックアップアカウント：バックアップするアカウントを設定します。
自動復元：アプリケーションの再インストール時にバックアップデータを復元します。

◆ 本端末の初期化

本端末をお買い上げ時の状態に戻します。本端末にお客様がインストールしたアプリケーションや登録したデータは、一部を除きすべて削除されます。

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[バックアップとリセット]→[データの初期化]→[内蔵ストレージ内のデータを消去]にチェック→[携帯端末をリセット]**

- ロック解除方法が設定されているときは、認証操作が必要です。
- ［SDカード内データを消去］にチェックを付けると、microSDカード内のデータもすべて消去されます。

2 **[すべて消去]**

リセットが完了してしばらくたつと、本端末が再起動します。
- 初期化中に電源を切らないでください。

✔お知らせ

- タッチパネル操作が正しく動作しない場合などは、電源を入れ直してください。

メール／インターネット

spモードメール

ｉモードのメールアドレス（@docomo.ne.jp）を利用して、メールの送受信をします。
絵文字、デコメール®の使用が可能で、自動受信にも対応しています。

- spモードメールの詳細については、『ご利用ガイドブック（spモード編）』をご覧ください。

1 アプリケーションメニューで[spモードメール]

以降は画面の指示に従って操作します。

SMS

携帯電話番号を宛先にして、最大全角70文字（半角英数字のみの場合は最大160文字）の文字メッセージを送受信します。

◆ SMSを作成して送信

1 アプリケーションメニューで[メッセージ]→[新規作成]

2 [To]→携帯電話番号を入力

3 [メッセージを入力]→メッセージを入力→

Eメール

mopera Uや一般のプロバイダが提供するメールアカウントを設定して、Eメールを利用します。

◆ 一般プロバイダのメールアカウントの設定

- あらかじめご利用のサービスプロバイダから設定に必要な情報を入手してください。

1 アプリケーションメニューで[メール]

2 [メールアドレス]→メールアドレスを入力→[パスワード]→パスワードを入力→[次へ]

以降は画面の指示に従って操作します。

◆ Eメールを作成して送信

1 アプリケーションメニューで[メール]

- 複数のメールアカウントがある場合は、画面左上のアカウントをタップして切り替えます。

2

3 [To]→アドレスを入力

- CcやBccを追加する場合は、［CC／BCCを追加］をタップします。

4 [件名]→件名を入力

5 [メールを作成します]→メッセージを入力

- ファイルを添付する場合は、→ファイルを選択します。

6

◆ Eメールの受信／表示

1 **アプリケーションメニューで[メール]**

- 複数のメールアカウントがある場合は、画面左上のアカウントをタップして切り替えます。アカウントをタップして［統合ビュー］をタップすると、すべてのメールアカウントのEメールが混在した受信トレイが表示されます。各メールアカウントはEメールの右側にあるカラーバーで区別されます。

2 **受信トレイを更新するには、**

3 **Eメールを選択**

Gmail

Gmailは、GoogleのオンラインEメールサービスです。本端末のGmailを使用して、Eメールの送受信が行えます。

◆ Gmailを開く

1 **アプリケーションメニューで[Gmail]**

受信トレイにメッセージスレッドの一覧が表示されます。

❖Gmailの更新

1 **受信トレイで**

本端末のGmailとWebサイトのGmailを同期させて、受信トレイを更新します。

- Gmailの詳細については、次の操作でモバイルヘルプをご覧ください。
Gmailの受信トレイで→［ヘルプ］

緊急速報「エリアメール」

気象庁から配信される緊急地震速報などを受信することができるサービスです。

- エリアメールはお申し込み不要の無料サービスです。
- 最大50件保存できます。
- 電源が入っていない、機内モード中、国際ローミング中、PINコード入力画面表示中などは受信できません。また、本端末のメモリ容量が少ないときは受信に失敗することがあります。
- 受信できなかったエリアメールを後で受信することはできません。

◆ 緊急速報「エリアメール」を受信したときは

エリアメールを受信すると、専用ブザー音または専用着信音が鳴りステータスバーに通知アイコンが表示され、内容表示画面が表示されます。

- ブザー音または着信音は最大音量で鳴動します。変更はできません。
- お買い上げ時は、マナーモード中でも鳴動します。鳴動しないように設定できます。→P45

◆ 受信したエリアメールの表示

1 **アプリケーションメニューで[エリアメール]→エリアメールを選択**

◆ 緊急速報「エリアメール」設定

1 アプリケーションメニューで[エリアメール]→▦→[設定]

2 各項目を設定

受信設定：エリアメールを受信するかどうかを設定します。

着信音：着信音の鳴動時間とマナーモード時の動作を設定します。

受信画面および着信音確認：緊急地震速報、津波警報、災害・避難情報のエリアメールを受信したときの受信画面と着信音を確認します。

その他の設定：緊急地震速報、津波警報、災害・避難情報以外のエリアメールの受信登録／削除の設定をします。

ブラウザ

ブラウザを利用して、パソコンと同じようにWebサイトを閲覧できます。
本端末では、パケット通信またはWi-Fiによる接続でブラウザを利用できます。

◆ Webサイト表示中の画面操作

■ Webページを縦表示／横表示に切り替え

本端末を縦または横に持ち替えて、縦／横画面表示を切り替えます。

■ Webページの拡大／縮小

次の方法で拡大／縮小します。

ピンチアウト／ピンチイン：拡大／縮小します。

ダブルタップ：拡大します。

- 拡大前の表示に戻す場合は、再度ダブルタップします。

ズームコントロール：画面をフリックしてズームコントロールを表示します。⊕で拡大し、⊖で縮小します。

- 現在表示しているWebページの拡縮率を、次にWebページを開いたときに引継ぐことができます。Webページを拡大／縮小した時などに表示されるアイコンをタップして、引継ぎの有効（🔍🔒）／無効（🔍🔓）を切り替えます。

■ 画面のスクロール／パン

画面を上下／左右にスクロールまたは全方向にパンして見たい部分を表示します。

◆ ブラウザを起動してWebサイトを表示

1 アプリケーションメニューで[ブラウザ]

2 Webページ最上部にスライド→アドレスバーにURL／キーワードを入力

3 [Go]／候補を選択

付録／索引

トラブルシューティング（FAQ）

◆ 故障かな？と思ったら

- まず初めに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください。→P49
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、本書巻末の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

■ 電源・充電

● 本端末の電源が入らない

電池切れになっていませんか。

● 充電ができない

- アダプタの電源プラグやシガーライタープラグがコンセントまたはシガーライターソケットに正しく差し込まれていますか。
- 本端末と付属のACアダプタ F05が正しく接続されていますか。→P21
- 付属の卓上ホルダを使用する場合、本端末の充電端子は汚れていませんか。汚れたときは、端子部分を乾いた綿棒などで拭いてください。
- 付属のPC接続用USBケーブル T01をご使用の場合、パソコンの電源が入っていますか。
- 充電しながら通信、その他機能の操作を長時間行うと、本端末の温度が上昇してランプが消える場合があります。温度が高い状態では安全のために充電を停止しているため、ご使用後に本端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。
- 電池が切れそうな状態で充電すると、約13分で充電が停止する場合があります。その場合は、ACアダプタや卓上ホルダなどのコネクタを抜き差ししてください。

■ 端末操作

● ボタンを押しても動作しない

スリープモードになっていませんか。[⏻]を押して解除してください。

● 電池の使用時間が短い

- 圏外の状態で長時間放置されるようなことはありませんか。圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。
- 内蔵電池の使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。
- 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、本書巻末の「故障お問い合わせ先」またはドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。

● ドコモminiUIMカードが認識されない

ドコモminiUIMカードを正しい向きで挿入していますか。→P19

● 操作中・充電中に熱くなる

操作中や充電中、充電しながらワンセグ視聴などを長時間行った場合などには、本端末や内蔵電池、アダプタが温かくなることがありますが、安全上問題ありませんので、そのままご使用ください。

● 時計がずれる

長い間、電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。日付と時刻の［日付と時刻の自動設定］にチェックが付いていることを確認し、電波のよい場所で電源を入れ直してください。

● 端末動作が不安定

ご購入後に端末へインストールしたアプリケーションにより不安定になっている可能性があります。
セーフモード（ご購入時に近い状態で起動させる機能）で起動して症状が改善される場合には、インストールしたアプリケーションをアンインストールすることで症状が改善される場合があります。
次の方法でセーフモードを起動してください。
電源を切った状態で［⏻］を2秒以上押し、docomoのロゴ表示終了後からホーム画面が表示されるまでの間、［▶］（音量小キー）を押し続けてください。セーフモードが起動されるとホーム画面左下に［セーフモード］と表示されます。セーフモードを終了させるには、電源を入れ直してください。

※ 事前に必要なデータをバックアップしてからセーフモードをご利用ください。
※ お客様ご自身で作成されたウィジェットが消える場合があります。
※ セーフモードは通常の起動状態ではありません。通常ご利用になる場合にはセーフモードを終了し、ご利用ください。

■ カメラ

● カメラで撮影した写真やビデオがぼやける

- カメラのレンズにくもりや汚れが付着していないかを確認してください。
- フォーカスモードを［オート］にしてください。

◆ エラーメッセージ

● しばらくお待ちください

音声回線／パケット通信設備が故障、または音声回線ネットワーク／パケット通信ネットワークが非常に混み合っています。しばらくたってから操作し直してください。

● しばらくお待ちください（パケット）

パケット通信設備が故障、またはパケット通信ネットワークが非常に混み合っています。しばらくたってから操作し直してください。

● 操作できませんでした

ドコモminiUIMカードがPUKロックされた状態でPINロック解除コードを入力すると表示されます。ドコモショップなど窓口にお問い合わせください。
→P32

● 電池残量がありません。シャットダウンします。

電池残量がありません。充電してください。→P20

● やり直してください

画面ロックの解除時に暗証番号またはパスワードが誤っていると表示されます。正しい暗証番号またはパスワードを入力してください。→P33

● PINコードが正しくありません。残り回数：X

正しくないPINコードを入力すると表示されます。正しいPINコードを入力してください。→P32

● SIMカードが挿入されていません

ドコモminiUIMカードが正しく挿入されていない場合に表示されます。ドコモminiUIMカードが正しく挿入されているか確認してください。

● SIM card 異常
このカードは認識できません。再起動します。ドコモUIMカード（FOMAカード）の金属部分の汚れは再起動の原因となります。金属部分は定期的な清掃をお勧めします。清掃には乾いた綿棒を使用してください。

ドコモminiUIMカードの金属部分が汚れている場合に表示されることがありますが故障ではありません。ドコモminiUIMカードの金属部分は定期的に清掃してください。

保証とアフターサービス

❖保証について

- 本端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および『販売店名・お買い上げ日』などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申しつけください。無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本端末の故障・修理やその他お取り扱いによって連絡先などに登録された内容が変化・消失する場合があります。万が一に備え連絡先などの内容はご自身で控えをお取りくださるようお願いします。

※ 本端末は、連絡先などのデータをmicroSDカードに保存していただくことができます。

❖アフターサービスについて

■ 調子が悪い場合は

修理を依頼される前に、本書の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください（→P46）。それでも調子がよくないときは、本書巻末の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

■ お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。また、ご来店時には必ず保証書をご持参ください。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■ 保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（液晶・コネクタなどの破損）による故障・損傷などは有料修理となります。
- ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

■ 次の場合は、修理できないことがあります。

- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や、内部の基板が破損・変形していた場合（外部接続端子・ステレオイヤホン端子・液晶などの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

■ 保証期間が過ぎたときは

ご要望により有料修理いたします。

■ 部品の保有期間は

本端末の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、本書巻末の「故障お問い合わせ先」へお問い合わせください。

■ お願い

- 本端末および付属品の改造はおやめください。
  - 火災・けが・故障の原因となります。
  - 改造が施された機器などの故障修理は、改造部分を元の状態に戻すことをご了承いただいた上でお受けいたします。ただし、改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。

- 次のような場合は改造とみなされる場合があります。
  - 液晶部やボタン部にシールなどを貼る
  - 接着剤などにより本端末に装飾を施す
  - 外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
- 改造が原因による故障・損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
- 各種機能の設定などの情報は、本端末の故障・修理やその他お取り扱いによってクリア（リセット）される場合があります。お手数をおかけしますが、その場合は再度設定してくださるようお願いいたします。
- 修理を実施した場合には、故障箇所に関係なく、Wi-Fi用のMACアドレスおよびBluetoothアドレスが変更される場合があります。
- 本端末のスピーカーなどに磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど、磁気の影響を受けやすいものを近づけるとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
- 本端末は防水性能を有しておりますが、本端末内部が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし本端末の状態によって修理できないことがあります。

メモリダイヤル（連絡先機能）およびダウンロード情報などについて

本端末を機種変更や故障修理をする際に、お客様が作成されたデータまたは外部から取り込まれたデータあるいはダウンロードされたデータなどが変化、消失などする場合があります。これらについて当社は一切の責任を負いません。また、当社の都合によりお客様の端末を代替品と交換することにより修理に代えさせていただく場合がありますが、その際にはこれらのデータなどは一部を除き交換後の製品に移し替えることはできません。

ソフトウェア更新

F-01Dのソフトウェア更新が必要かをネットワークに接続して確認し、必要に応じて更新ファイルをダウンロードして、ソフトウェアを更新する機能です。
ソフトウェア更新が必要な場合には、ドコモのホームページでご案内いたします。

✔お知らせ

- ソフトウェア更新は、本端末に登録した連絡先、カメラ画像、メール、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行えますが、お客様の端末の状態（故障、破損、水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合があります。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承ください。

◆ ご利用にあたって

- ソフトウェア更新を行う際は、電池をフル充電しておいてください。更新時は充電ケーブルを接続することをおすすめします。
- 次の場合はソフトウェアを更新できません。
  - 圏外が表示されているとき※
  - 国際ローミング中※
  - 機内モード中※
  - OSバージョンアップ中
  - 日付と時刻を正しく設定していないとき
  - ソフトウェア更新に必要な電池残量がないとき
  - ソフトウェア更新に必要なメモリ空き容量がないとき

※ 圏外、国際ローミング中は、Wi-Fi接続中であっても更新できません。

- ソフトウェア更新（ダウンロード、書き換え）には時間がかかる場合があります。
- ソフトウェア更新中は、各種通信機能およびその他の機能を利用できません。

- ソフトウェア更新は電波状態のよい所で、移動せずに実施することをおすすめします。電波状態が悪い場合には、ソフトウェア更新を中断することがあります。
- ソフトウェア更新が不要な場合は、［更新の必要はありません。このままお使いください］と表示されます。
- 国際ローミング中、または圏外にいるときは［ドコモの電波が受信できない場所、またはローミング中はWi-Fi接続中であってもダウンロードを開始できません］または［ドコモの電波が受信できない場所、またはローミング中はWi-Fi接続中であっても書換え処理を開始できません］と表示されます。Wi-Fi接続中も同様です。
- ソフトウェア更新中に送信されてきたSMSは、SMSセンターに保管されます。
- ソフトウェア更新の際、お客様のF-01D固有の情報（機種や製造番号など）が、当社のソフトウェア更新用サーバーに送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。
- ソフトウェア更新に失敗した場合に、端末が起動しなくなることや、［ソフトウェア更新に失敗しました。］と表示され、一切の操作ができなくなることがあります。その場合には、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただきますようお願いいたします。
- PINコードが設定されているときは、書き換え処理後の再起動の途中でPINコード入力画面が表示され、PINコードを入力する必要があります。
- ソフトウェア更新中は、他のアプリケーションを起動しないでください。

◆ ソフトウェアの即時更新

1 **アプリケーションメニューで[設定]→[端末情報]→[ソフトウェア更新]→[更新を開始する]→[はい]**

- ソフトウェア更新の必要がないときには、［更新の必要はありません。このままお使いください］と表示されます。

2 **[ソフトウェア更新を開始します。他のソフトはご利用にならないでください]と表示され、約10秒後に自動的に書き換え開始**

- 更新中は、すべてのボタン操作が無効となり、更新を中止することができません。
- ソフトウェア更新が完了すると、自動的に再起動が行われ、ホーム画面が表示されます。

認定および準拠について

本端末に固有の認定および準拠マークに関する詳細（認証・認定番号を含む）は、本端末で以下の操作を行うとご確認いただけます。
アプリケーションメニューで［設定］→［端末情報］→［認証］

Declaration of Conformity

The product "F-01D" is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1(a), 3.1(b) and 3.2. The Declaration of Conformity can be found on http://www.fmworld.net/product/phone/doc/.

This tablet PC complies with the EU requirements for exposure to radio waves. Your tablet PC is a radio transceiver, designed and manufactured not to exceed the SAR* limits** for exposure to radio-frequency(RF) energy, which SAR* value, when tested for compliance against the standard was 0.637W/kg. While there may be differences between the SAR* levels of various positions, they all meet*** the EU requirements for RF exposure.

---

* The exposure standard for tablet PC employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

** The SAR limit for tablet PC used by the public is 2.0 watts/kilogram (W/Kg) averaged over ten grams of tissue, recommended by The Council of the European Union. The limit incorporates a substantial margin of safety to give additional protection for the public and to account for any variations in measurements.

*** Tests for SAR have been conducted using standard operation positions with the device transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the device while operating can be well below the maximum value. This is because the device is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a base station antenna, the lower the power output.

Federal Communications Commission (FCC) Notice

- This device complies with part 15 of the FCC rules.
  Operation is subject to the following two conditions :
  ① this device may not cause harmful interference, and
  ② this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications made in or to the radio phone, not expressly approved by the manufacturer, will void the user's authority to operate the equipment.

FCC RF Exposure Information

This model device meets the U.S. Government's requirements for exposure to radio waves.
This model device contains a radio transmitter and receiver. This model device is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy as set by the FCC of the U.S. Government. These limits are part of comprehensive guidelines and establish permitted levels of RF energy for the general population. The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.
The exposure standard for wireless tablet PC employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate (SAR). The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. Tests for SAR are conducted using standard operating positions as accepted by the FCC with the device transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the device while operating can be well below the maximum value. This is because the device is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a wireless base station antenna, the lower the power output level of the device.
Before a tablet PC model is available for sale to the public, it must be tested and certified to prove to the FCC that it does not exceed the limit established by the U.S. government-adopted requirement for safe exposure. The tests are performed on position and locations (for example, worn on the body) as required by FCC for each model. The highest SAR value for this model device as reported to the FCC, when worn on the body, is 1.330W/kg. (Body-worn measurements differ among phone models, depending upon available accessories and FCC requirements).
While there may be differences between the SAR levels at various positions, they all meet the U.S. government requirements.
The FCC has granted an Equipment Authorization for this model device with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF exposure guidelines. SAR information on this model device is on file with the FCC and can be found under the Equipment Authorization Search section at http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ (please search on FCC ID VQK-F01D).
For body worn operation, this device has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines when used with an accessory designated for this product or when used with an accessory that contains no metal.

※ In the United States, the SAR limit for wireless tablet PC used by the general public is 1.6 Watts/kg (W/kg), averaged over one gram of tissue. SAR values may vary depending upon national reporting requirements and the network band.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Important Safety Information

AIRCRAFT

Switch off your wireless device when boarding an aircraft or whenever you are instructed to do so by airline staff. If your device offers flight mode or similar feature consult airline staff as to whether it can be used on board.

DRIVING

Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

HOSPITALS

Tablet PC should be switched off wherever you are requested to do so in hospitals, clinics or health care facilities. These requests are designed to prevent possible interference with sensitive medical equipment.

PETROL STATIONS

Obey all posted signs with respect to the use of wireless devices or other radio equipment in locations with flammable material and chemicals. Switch off your wireless device whenever you are instructed to do so by authorized staff.

INTERFERENCE

Care must be taken when using the device in close proximity to personal medical devices, such as pacemakers and hearing aids.

Pacemakers

Pacemaker manufacturers recommend that a minimum separation of 15 cm be maintained between a tablet PC and a pace maker to avoid potential interference with the pacemaker.

Hearing Aids

Some digital wireless devices may interfere with some hearing aids. In the event of such interference, you may want to consult your hearing aid manufacturer to discuss alternatives.

For other Medical Devices :

Please consult your physician and the device manufacturer to determine if operation of your phone may interfere with the operation of your medical device.

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問合せください。

知的財産権

◆ 著作権・肖像権

お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などはできません。
実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。
また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

◆ 商標

本書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。

- 「Xi」「Xi／クロッシィ」「FOMA」「ｉモード」「ｉアプリ」「ｉモーション」「デコメール®」「mopera」「mopera U」「エリアメール」「spモード」「eトリセツ」「dメニュー」はNTTドコモの商標または登録商標です。
- McAfee®、マカフィー®は米国法人McAfee, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- ロヴィ、Rovi、Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米国Rovi Corporationおよび／またはその関連会社の日本国内における商標または登録商標です。
- 本製品はAdobe Systems IncorporatedのAdobe® Flash® Playerを搭載しています。
  Adobe Flash Player Copyright© 1996-2012 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
  Adobe、FlashおよびFlash Logoは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browser、NetFront Document Viewerを搭載しています。
  ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。
  Copyright© 2012 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
- 「ATOK」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、その他権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- TwitterおよびTwitterロゴはTwitter, Inc.の商標または登録商標です。
- microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Media®、Windows Vista®、PowerPoint®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft Excel、Microsoft Wordは、米国のMicrosoft Corporationの商品名称です。本書ではExcel、Wordのように表記している場合があります。

- 本書では各OS（日本語版）を次のように略して表記しています。
  - Windows 7は、Microsoft® Windows® 7（Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows Vistaは、Windows Vista®（Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
- GoogleおよびGoogleロゴ、AndroidおよびAndroidロゴ、Google PlayおよびGoogle Playロゴ、Gmail、Google Latitude、YouTubeおよびYouTubeロゴ、Googleマップ、GoogleマップナビおよびGoogleマップナビロゴ、GoogleトークおよびGoogleトークロゴ、GoogleローカルおよびGoogleローカルロゴ、Google音声検索、Picasaは、Google, Inc.の登録商標です。
- Bluetooth®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INCの登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- 「UD新丸ゴ」は、株式会社モリサワより提供を受けており、フォントデータの著作権は同社に帰属します。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WMN®、Wi-FiロゴおよびWi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの商標です。
- AOSS™は株式会社バッファローの商標です。
- OBEX™は、Infrared Data Association®の商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- FrameSolidは株式会社モルフォの登録商標です。
- DigiOn及びDiXiMは株式会社デジオンの商標です。
- StationMobile®は株式会社ピクセラの登録商標です。
- TouchSense® Technology and MOTIV™ Integrator Licensed from Immersion Corporation and protected under one or more of the following United States Patents:
  5844392, 5959613, 6088017, 6104158, 6147674, 6275213, 6278439, 6300936, 6424333, 6424356, 6429846, 7091948, 7154470, 7168042, 7191191, 7209117, 7218310, 7369115, 7592999, 7623114, 7639232, 7656388, 7701438, 7765333, 7779166, 7821493, 7969288 and additional patents pending.
- その他、本書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。

◆ その他

- 本製品の一部分に、Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- 本製品は、MPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する場合においてのみ使用することが認められています。
  - MPEG-4 Visualの規格に準拠する動画やｉモーション（以下、MPEG-4 Video）を記録する場合
  - 個人的かつ営利活動に従事していない消費者によって記録されたMPEG-4 Videoを再生する場合
  - MPEG-LAよりライセンスを受けた提供者により提供されたMPEG-4 Videoを再生する場合

  プロモーション、社内用、営利目的などその他の用途に使用する場合には、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（i）AVC規格準拠のビデオ（以下「AVCビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ii）AVCビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
http://www.mpegla.com をご参照ください。
- 本製品は、VC-1 Patent Portfolio Licenseに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（i）VC-1規格準拠のビデオ（以下「VC-1ビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ii）VC-1ビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたVC-1ビデオ、および／またはVC-1ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したVC-1ビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
http://www.mpegla.com をご参照ください。
- FrameSolidは株式会社モルフォの画像フレーム補間機能です。

◆ Adobe® Flash® Playerエンドユーザ・ライセンス契約

(i) a prohibition against distribution and copying, (ii) a prohibition against modifications and derivative works, (iii) a prohibition against decompiling, reverse engineering, disassembling, and otherwise reducing the software to a human-perceivable form, (iv) a provision indicating ownership of the Software by Partner and its suppliers, (v) a disclaimer of indirect, special, incidental, punitive, and consequential damages, and (vi) a disclaimer of all applicable statutory warranties, to the full extent allowed by law, a limitation of liability not to exceed the price of the Integrated Product, and/or a provision that the end user's sole remedy shall be a right of return and refund, if any, from Partner or its Distributors.

◆ オープンソースソフトウェア

- 本製品には、Apache License V2.0に基づきライセンスされるソフトウェアに当社が必要な改変を施して使用しております。
- 本製品には、GNU General Public License(GPL)、GNU Lesser General Public License（LGPL)、その他のライセンスに基づくソフトウェアが含まれております。ライセンスに関する詳細は、アプリケーションメニューで［設定］→［端末情報］→［法的情報］→［オープンソースライセンス］をご参照ください。

- 本製品で使用しているオープンソースソフトウェアのソースコードは、GPL（http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html）、LGPL（http://www.gnu.org/licenses/lgpl-2.1.html）、MPL（http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html）、CPL（http://www.eclipse.org/legal/cpl-v10.html）の規定に従い開示しております。
  詳細については以下のサイトの本製品に関する情報をご参照ください。
  http://www.fmworld.net/product/phone/sp/android/develop/

SIMロック解除

本端末はSIMロック解除に対応しています。SIMロックを解除すると他社のSIMカードを使用することができます。

- SIMロック解除は、ドコモショップで受付をしております。
- 別途SIMロック解除手数料がかかります。
- 他社のSIMカードをご使用になる場合、LTE方式では、ご利用いただけません。また、ご利用になれるサービス、機能などが制限されます。当社では、一切の動作保証はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- SIMロック解除に関する詳細については、ドコモのホームページをご確認ください。

索引

機能名やキーワードを列挙した索引には、「五十音目次」としての機能もあります。なお、「登録」「削除」などの操作については、まず1階層目（**太字**）の機能名やキーワードで検索したのち、2階層目の索引項目から探してください。

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

英数字・記号

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申込、各種資料請求をオンライン上で承っております。

spモードから	dメニュー ⇒「お客様サポートへ」⇒「各種お申込・お手続き」（パケット通信料無料）
パソコンから	My docomo（http://www.mydocomo.com/）⇒ 各種お申込・お手続き

※spモードからご利用になる場合、「ネットワーク暗証番号」が必要となります。
※spモードからご利用になる際は、一部有料となる場合があります。
※パソコンからご利用になる場合、「docomo ID／パスワード」が必要となります。
※「ネットワーク暗証番号」および「docomo ID／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は、本書巻末の「総合お問い合わせ先」にご相談ください。
※ご契約内容によってはご利用になれない場合があります。
※システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーもいっしょに携帯しましょう

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ 使用禁止の場所にいる場合

航空機内、病院内では、必ず本端末の電源を切ってください。

※ 医用電気機器を使用している方がいるのは病棟内だけではありません。ロビーや待合室などでも、必ず電源を切ってください。

■ 満員電車の中など、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性がある場合

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器に悪影響を与える恐れがあります。

■ 運転中の場合

運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。
ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合を除きます。

■ 劇場・映画館・美術館など公共の場所にいる場合

静かにするべき公共の場所で本端末を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

プライバシーに配慮しましょう

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

こんな機能が公共のマナーを守ります

本端末から鳴る音を消す設定など、便利な機能があります。

●バイブ
受信したことを、振動でお知らせします。

●マナーモード／オリジナルマナー
着信音や操作音など本端末から鳴る音を消します（マナーモード）。
音の種類ごとに音量とバイブレーションを設定できます（オリジナルマナー）。
※ただし、シャッター音は消せません。

総合お問い合わせ先〈ドコモ インフォメーションセンター〉

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）151（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　午前9：00～午後8：00　（年中無休）

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）113（無料）

※一般電話などからはご利用になれません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　24時間　（年中無休）

●番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。
ドコモホームページ　http://www.nttdocomo.co.jp/

海外での紛失、盗難、精算などについて〈ドコモ インフォメーションセンター〉（24時間受付）

●ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6832-6600*（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

●一般電話などからの場合〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8000120-0151*

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

海外での故障について〈ネットワークオペレーションセンター〉（24時間受付）

●ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6718-1414*（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

●一般電話などからの場合〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8005931-8600*

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
●お客様が購入された端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。
○公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　富士通株式会社

'12.7（3 版）
CA92002-6530